

犬山市水道事業 水道料金の見直し等に関する説明会

犬山市水道事業 都市整備部水道課

水道事業とは

- 水道事業とは、地方公共団体が住民の福祉の増進を目的として設置し、経営する企業 ⇒ 地方公営企業
- 水道事業の他に下水道・市立病院・市営地下鉄などが一般的
- 地方公営企業は独立採算制が原則

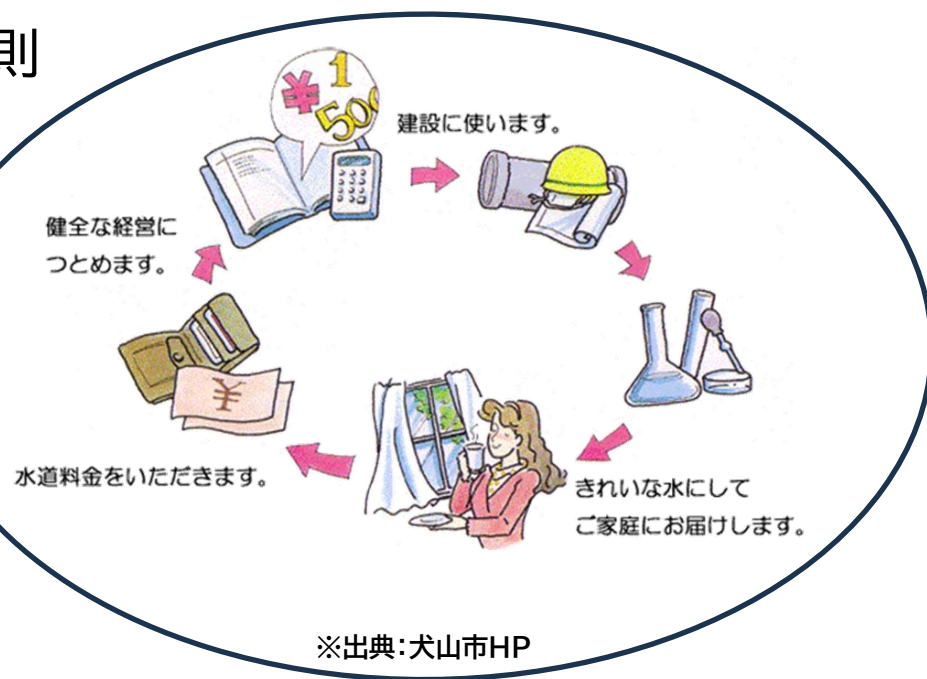
地方公営企業

経営に必要な経費を
経営に伴う収入で賄う。

⇒ 一方で

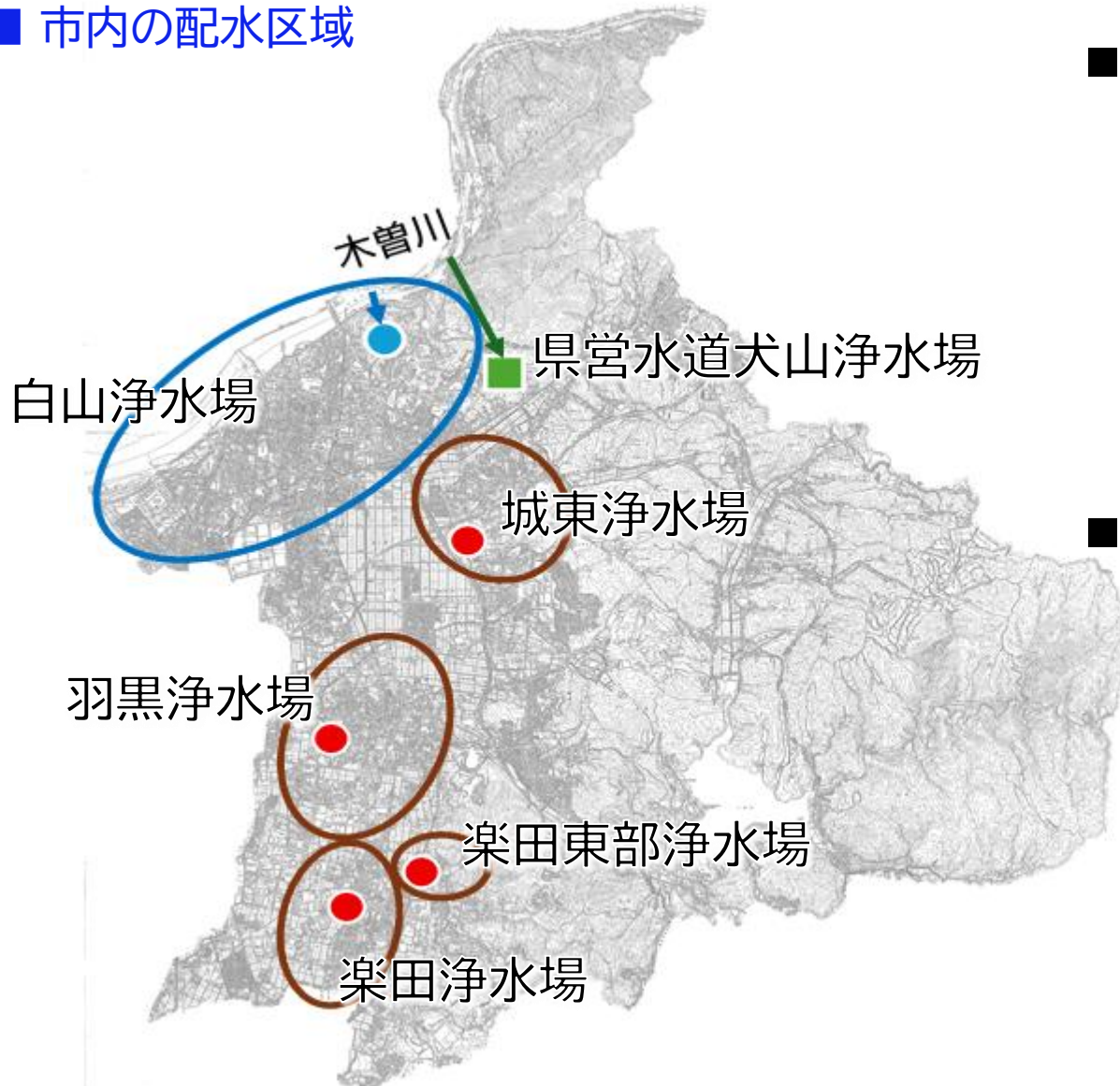
行政

運営に必要な経費を
税金で賄う。



犬山市の水道事業は

■ 市内の配水区域



■ 自己水（市で作った水）

白山浄水場
(木曽川表流水)

他の市浄水場
(地下水)

■ 県水（県で作った水を購入）

上記以外の区域
(県営水道受水)
※水源は木曽川

犬山市の水道事業は

■ 令和6年度決算概要(1)

- 給水区域 市全域
- 行政人口 (R6年度末) 71,067人
- 給水人口 (R6年度末) 70,942人 (普及率99.8%)
- 年間総配水量 10,533,693m³
 - うち 県水受水 6,765,520m³ (64.2%)
 - 白山水系 1,756,850m³ (16.7%)
 - 地下水系 2,011,323m³ (19.1%)
- 年間有収水量 8,871,470m³ (有収率84.2%)

◇配水量…浄水場などから送り出した水道水の量

◇有収水量…ご家庭などに届けられ水道メーターで計量された水道水の合計量
(料金の基礎となる量=消火栓からの放水や水道管からの漏水は含まない)

◇有収率…有収水量÷配水量。低いほど漏水が多いなど料金回収率が悪いことを示す。
全国平均 (R5年度) 89.4%、類似団体 (人口5~10万) 87.0%

犬山市の水道事業は

■ 令和6年度決算概要(2)

- 年間給水収益 992,923,222円 (消費税抜)
- 供給単価 111.92円 ※給水量1 m³当たりの料金収入
- 給水原価 116.15円 ※配水量1 m³当たりの費用
- 経常収支比率 99.4%
- 料金回収率 96.4%
- 当年度純損失 ▲7,803,286円

◇経常収支比率…経常収益÷経常費用。特別な事情により発生した特別損益を除いた、通常の経営で発生する全ての収益を費用で割ったもの。100%未満は赤字経営であることを示す。

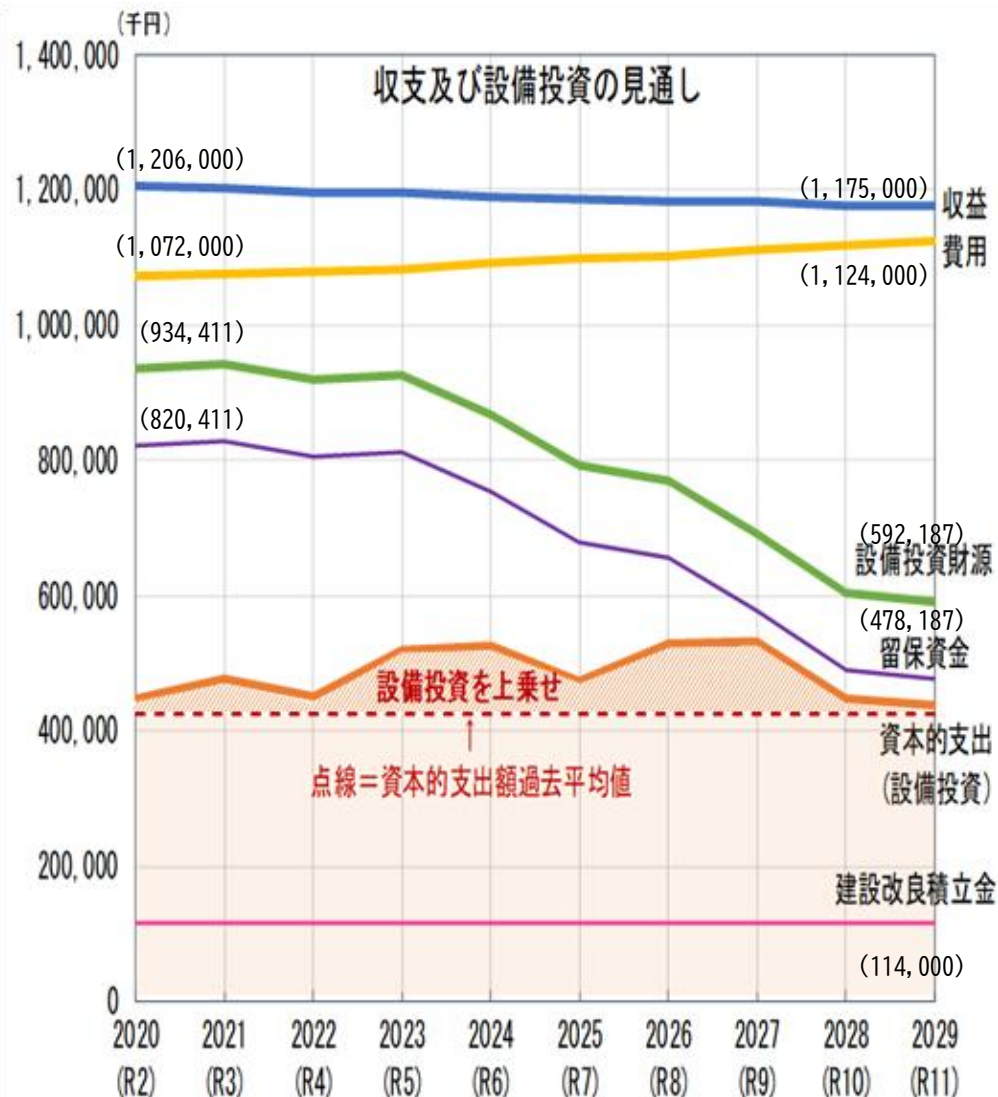
◇料金回収率…給水収益÷(経常費用-対象外経費)。水道料金収入を水道経営に要する費用(他者が費用を負担して水道に依頼した場合の工事費用や自費で購入したもの以外の資産の償却などを除く)で割ったもの。独立採算の観点で、水道経営に必要な経費をどれだけ料金で賄えているかを示す。

現行の経営戦略

- 経営戦略とは 「経営戦略」は、各公営企業が、将来にわたって安定的な事業を継続していくために、経営基盤の強化と財政マネジメント向上を図り策定する中長期的な経営の基本計画
- 策定年度 令和2年度
- 現行計画期間 令和2 ~ 11年度
- 給水人口推計 70,423人（令和11年度）
- 給水収益推計 約10億 200万円（令和11年度）
- 収支計画
 - 経常収益 約11億7,500万円（令和11年度）
 - 経常費用 約11億2,400万円（ // ）
 - 経常利益 約5,100万円（ // ）

現行の経営戦略

- 人口減少に伴う収入の減
 R1 R11 百万円
 料金収入 1,039→1,002 (▲37)
- 将来に向けた設備投資の増
 実績平均比で年6000万円上乗せ
 (10年で6億増の48.4億円に)
- 水道管を60年で一通り更新
 管路更新率 1.66% (R11目標)
- 借金はせず内部留保を活用
 内部留保資金は3.4億円減少
- 積立金は取崩しせず資金確保
 設備投資財源 (留保資金+積立金) の残高は5.9億円に



現行の経営戦略と現状実績との対比について

■収益⇒R2～6の年平均実績は計画比+300万円(+0.25%)程度で、
ほぼ計画どおりに推移している

■費用⇒各種費用は物価上昇等の影響により、計画より大幅に乖離している。

- ・動力費(浄水場などの電気代)

⇒R6の計画と実績の差は+1900万円(+38%)、
R11見通しは+2800万円(+56%)

- ・修繕費(水道管の漏水の修繕工事など)

⇒R6の計画と実績の差は+1500万円(+46%)、
R11見通しは+1900万円(+58%)

- ・その他の費用(県水の購入費・メーター交換費用など)

⇒物価高騰に伴い調達価格が軒並み上昇し、
R6実績は計画を4400万円上回っている。

(県水単価は R6.10に2円/m³、

R8.4にはさらに4円/m³値上げ、影響年額は約4000万円)

⇒収益はほぼ当初計画どおり、主に費用の増加が原因で収支が悪化

今後の経営に関する課題

- 現行の経営戦略に対し、現実には**収支ギャップが発生**、利益が消滅



- 人口減少により収入は想定どおり減少⇔物価高により**支出は想定以上に増加**



- ギャップを埋めるため**支出の削減が必要**

- ・**有収率の改善によるコストの削減**

- ただし・・・

- ・電気代、県水値上げ等の外部要因が大きく、自助努力でのコスト削減は限界がある。



- 人口減による使用量減少は不可避。**収入増には料金単価の見直しが必要**



- **支出削減と収入増を両輪として収支を改善し利益を確保する必要性**



- 適正な利益確保により**毎年継続して設備更新を実施していく**

これまでのコスト削減策とその結果

■コスト削減の例

○民間ノウハウの活用（包括的民間委託）

業務を個別に民間委託するのではなく、一定の分野の業務をパッケージ化して包括委託しています。

☞ 浄水に必要な薬品類の調達等を含め浄水場等の運転管理を一括して委託
年間約150万円のコストメリット

☞ 検針や料金請求を行う水道お客様センターの運営を一括して委託
年間約720万円のコストメリット

○組織見直しによる人件費削減

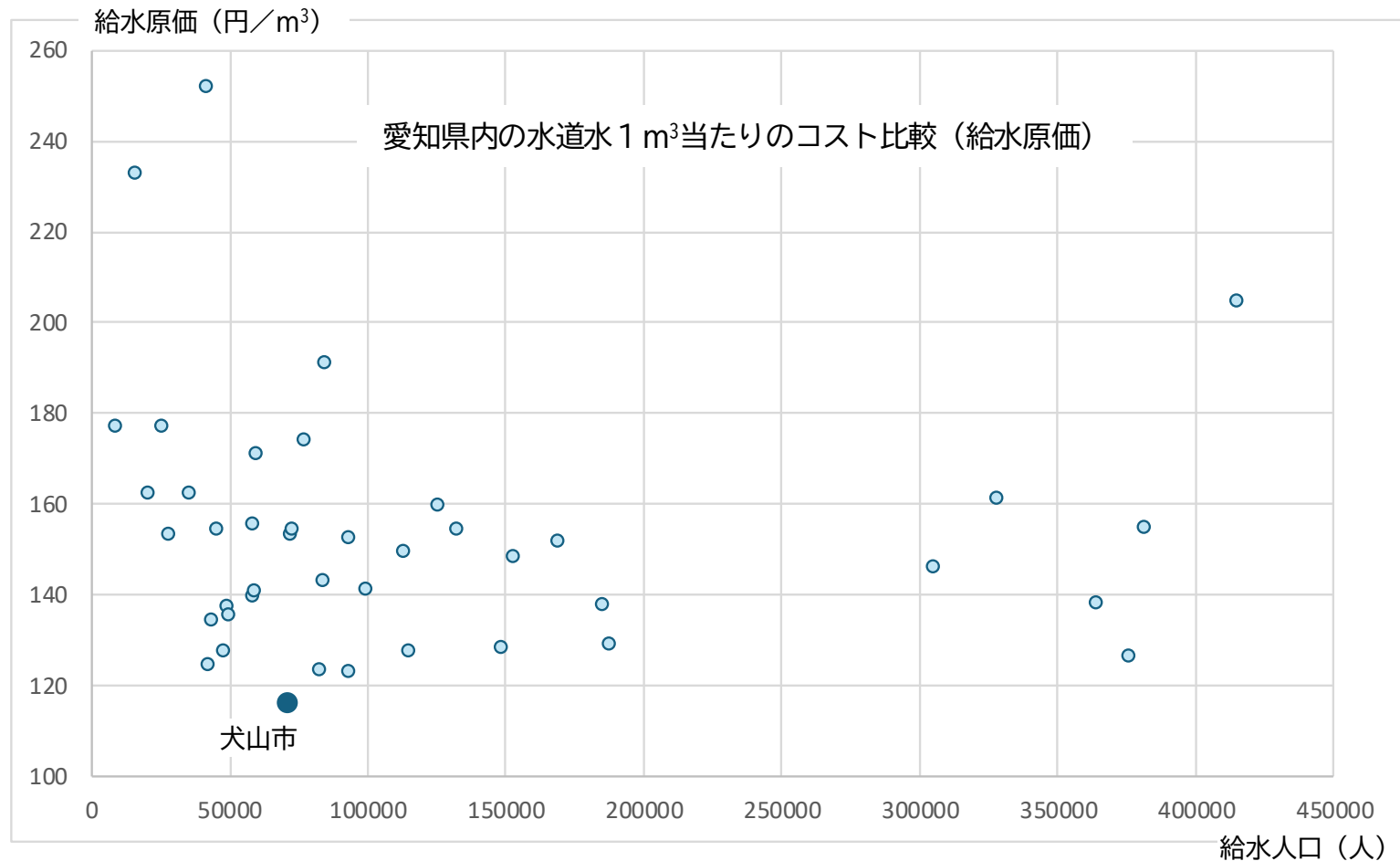
水道部を都市整備部に統合して組織をスリム化し、水道部長職を廃止しました。

☞ 年間約340万円（当時）の人件費削減



その結果・・・犬山市の水道は、水道水1 m³あたりに掛かっているコストが愛知県内で最も少ないことで、県内で最も安い水道料金に。

これまでのコスト削減策とその結果



1 m³当たり 県平均161.79円 市平均150.08円 犬山市116.15円 (供給単価は111.92円=赤字)

出典) 市町村の公営企業のあらまし (愛知県市町村課) 令和6年度決算

経営戦略（案）を公開し、皆さんの意見を募集しています（パブリックコメント）

- 期間 令和8年5月1日（金）～6月1日（月）
- 公開場所 市ホームページ
犬山市役所 1階市民プラザ、2階水道課窓口
市内各出張所
シンエイライフ犬山ライブラリー（市立図書館）
- 提出方法 Eメール、FAX、郵送
直接提出（市役所2階水道課、市内各出張所のみ）
- 留意事項 住所、氏名が記載されていないものは無効
電話や口頭による意見は受付していません

皆さまの貴重なご意見をお願いします